TOKYO BAPTIST CHURCH 東京バプテスト教会
Weekend Message
週末メッセージが聞けます http://tokyobaptist.org/sermons/

王が来られた ドレスコード

マタイによる福音書 22:1-14

2022 年 7 月 16 日&17 日
余沢 武 牧師

I. イントロダクション

こんにちは。私たちは、イエスがメシアとしてエルサレムに入城されるのを見てきました。ユダヤの権力者たちがイエスを貶めようとした後、イエスは二つのたとえ話をされました。

① 「2 人の息子のたとえ話」
② 「ぶどう園のたとえ」
③ 今日は 3 番目のたとえ話を見ていきます。まず、祈りましょう。

II. ドレスコード？

(1) 祝宴への招待

マタイによる福音書 22 章 1 節から 3 節を読みましょう。[1] イエスは、また、たとえを用いて語られた。[2]「天の国は、ある王が王子のために婚礼の祝宴を催したのに似ている。[3] 王は家来たちを送り、祝宴に招いておいた人々を呼ばせたが、来ようとしなかった。

- 「王」は神、「王子」はイエスです。
- 「婚礼の祝宴」は「贖い」、または「神の国」への入場を描写しています。
- 「家来たち」は、バプテスマのヨハネ、イエス、イエスの弟子たち、「神の国」が来ることを知らせていた人たちを描写しています。
- 「祝宴に招いておいた人々」とは、「イスラエル人たち」、旧約聖書で神に選ばれた人々のことです。

イエスの時代には、結婚式のやり方が今とは違っていました。

① まず、「新郎となる人」と「新婦となる人の父親」との間で「プロポーズ」が成立する必要があります。それから、「花嫁代価」が支払われて、そして二人は婚約したことになります。
② その後、「新郎となる人」は結婚式の準備を始めます。招待客は日付が記載されていない婚礼の祝宴の招待状を受け取ります、これが 1 回目の招待状です。
③ 約 1 年後、新郎の準備が整った時点で、招待客は日付が入った次の招待状を受け取ります。これが 2 回目の招待状です。1 回目の招待を受けた人は 2 回目の招待も受けることが期待されます。
④ その後、「婚礼の祝宴」は新郎の父の家で行われます。

イスラエル人は「救い」のためそして「神の国」に入るための招待を、ずっと昔の旧約聖書の時代に受けていました、それが 1 回目の招待状でした。今 2 回目の招待状が来ましたが、彼らはそれを拒否したのです。

(2) 招待への反応

4-7 節を読みます。

[4] そこでまた、次のように言って、別の家来たちを使いに出した。『招いておいた人々にこう言いなさい。「食事の用意が整いました。牛や肥えた家畜を屠って、すっかり用意ができています。さあ、祝宴にお出でください。」』[5] しかし、人々はそれを無視し、一人は畑に、一人は商売に出かけ、[6] また、他の人々は王の家来たちを捕まえて侮辱を加えた上、殺してしまった。[7] 王は怒り、軍隊を送って、この人殺しどもを滅ぼし、その町を焼き払った。

王の忍耐に注目してください。王は彼らを招待するためにさらに家来たちを送りました。しかし、まだ彼らは来ませんでした。彼らは自分の農場と仕事で忙しかったのです。
彼らは本当に「結婚の祝宴」つまり「救い」「神の国」また、「御国に実を結ぶ」ことにも全く興味がありませんでした。

彼らはこの世のことで忙しかった。彼らはこの世のあり方を愛していました。自分たちのあり方を愛していて、変える気もありませんでした。

これがイスラエルの問題点でした。彼らは自分たちが神の民であり、区別されていると思っていました。心を尽くし、魂を尽くし、思いを尽くして神を愛する生き方から、自分達が外れてしまっていたことに気付いていませんでした。そして彼らはこの世を愛していました。

そして気をつけなければ、私たちも「世への愛」が「神への愛」よりも簡単に勝ってしまうことがあるのです。

私が結婚前のカウンセリングをおこなう時、通常、“人生の優先順位”は“時間の使い方の優先順位”に反映されるべきであると伝えています。私は次のことを思い出させています。

① 私たちの優先順位１番は、神との時間であるべき。
② 私たちの優先順位２番は、家族、特に配偶者との時間であるべき。
③ 私たちの優先順位3番は、教会の奉仕活動や仕事のための時間であるべき。
④ その他の活動、趣味、テレビ、インターネット、ゲームなどはすべてその後であるべき。

現在、優先順位が高いということは、それにより長い時間を費やすという意味ではありません。12 時間を神と過ごし、6 時間を家族と過ごし、3 時間を職場やミニストリーに費やすという意味ではありません。「優先順位が高い」ということは、そのために必要な時間を守るために、あらゆる努力をするということです。例えば

① 神を第一優先とするならば、神との「健全な関係」を築くためには、毎週教会に来て、毎日 QT をする必要があります。3 週間礼拝に出席していない、あるいは、2 週間の間 QT をしていないなら、神はもはや第一優先ではありません。

② 結婚が２番目の優先事項であるなら、妻と「健全な関係」を築くためには、1 日平均２時間は共に過ごすか、週に１回はデートする必要があります。でも、週に３時間しか一緒に過ごしていない、あるいは、2 か月はデートしていなかったら、もはや結婚はすでに自分の優先順位ではなくなっていることがわかります。代わりに何か他のことが優先されています。それは仕事かもしれませんし、インターネットや他のことかもしれません。

これが、私たちが気をつけなければならないことです。

私たちは、心を尽くし、魂を尽くし、思いを尽くして神を愛しているつもりで、道を外れていることに気が付かないかもしれません。しかし実際には、私たちはこの世を愛しているのです。神はもはや私たちの最優先事項ではありません。私たちは神と時間を過ごすことに関心がなく、神の人々と遠ざかっているのです。

私たちはこの世のことに非常に忙しくなり、「救い」「神の国」そして「御国に実を結ぶ」ことに興味を失ってしまいました。

イスラエルの民は、神の婚礼の祝宴に招待されても、興味を示しませんでした。彼らはこの世に居たかった、彼らは「神の国」に居たくありませんでした。そして使者たちを殺してしまいました。

そしてイエスは彼らに言いました。神が彼らの町を焼き尽くす、と。40 年後の AD70 年、ローマ軍がエルサレムを破壊しました。人々は殺され、礫にされるか奴隷にされました。神殿は焼き払われ、その時以来、エルサレムには神殿がありません。

（3） 誰でも歓迎の招待

8 節から 12 節を読みます。 8 そして、家来たちに言った。『祝宴の用意はできているが、招いておいた人々は、ふさわしくなかった。 9 だから、四つ辻に出て行って、見かけた者は誰でも祝宴に招きなさい。』 10 それで、家来たちは通りに出て行き、見かけた人は善人も悪人も皆集めて来たので、祝宴は客でいっぱいになった。 11 王が入って来て客を見回すと、そこに礼服を着ていない者が一人いた。12 王は、『友よ、どうして礼服を着ないでここに入って来たのか』と言った。この者が黙っていると、

最初に「救い」に、「神の国」に、そして「神の実を結ぶ」ために招かれた人々がその招待を拒否した後、招待はすべての人に、つまり「ユダヤ人」「非ユダヤ人」「善人」「悪人」に広げられました。

しかし、神の国に入るためには、満たさなければならない最終条件がありました。人は「礼服」を着る必要があります。王がある男に「友よ、どうして礼服を着ないでここに入って来たのか」と尋ねた時、その男は黙っていました。

13節から14節を読みます。 **[13]王は召し使いたちに言った。『この男の手足を縛って、外の暗闇に放り出せ。そこで泣きわめき、歯ぎしりするであろう。』[14]招かれる人は多いが、選ばれる人は少ない。」**

では、「礼服」とは何でしょうか。これまでのたとえ話で学んだように、神は民が実を結ぶことを求めておられます。「礼服」とは「実を結ぶ」能力、つまり、心を尽くし、魂を尽くし、思いを尽くして神を愛し、隣人を自分のように愛することです。

ヨハネの黙示録19章8節は救われた人たちについて書かれています。**「輝く清い上質の亜麻布を身にまとった。／この上質の亜麻布とは／聖なる者たちの正しい行いである。」**

「礼服」とは、「聖なる者たちの正しい行い」、つまり「実」のことです。これが「神の国」、すなわち「神の天国」に入るために求められます。

ドナルド・バーンハウス牧師は、ある人がクリスチャンかどうかを調べたいとき、いつもこう尋ねることで知られていました。「もしあなたが今夜死んで、天国の神の前に現れたとしたら、神はあなたに『私の天国に入るためにあなたにはどんな権利があるのか』と問うでしょう。あなたは何と答えますか？

彼は3種類の反応しかないことを知っていました。

① 「私は心からベストを尽くしてきた。他の人よりはましだ」と言う人がいるかもしれません。しかし、聖書にはこうあります。「正しい者は一人もいない」と。それは「礼服」ではありません。

② 2番目のグループは、自分が罪深く、利己的で、不義であったことを知っている人たちです。人生において、彼らは何とかやっていけます。しかし、聖なる神を見て、「私の天国に入るためにどんな権利があるのか」と問われると、彼らは言葉を失います。彼らは何も言うことができません。

③ 3番目のグループです。神が「私の天国に入るためにどんな権利があるのか」と尋ねると、彼らの答えはこうです。

「ありません。私は罪深く、不義な人間です。しかし、イエスは『私に委ねよ』と言われました。そして私はそうしました。そして、イエスは罰を受け、死んで、よみがえられました。そして、その義で私を覆ってくださいました。その義なる聖霊を私の内に授け、私を内側から正しくしてくださいました。イエスは私の希望となりました。私の希望はイエスがしてくださったこと、そして私にしてくださっていることにあります。」

それを聞いた王様は、笑顔で「ご主人様の幸せを分けてあげなさい」と言うでしょう。それが「礼服」です。

➢ 「礼服」を着るということは

① 自分の罪を自覚し、悔い改めること。
② イエスは、私たちの罪のために死に甦られた、ことを受け入れること。
③ 神に私たちを赦し、私たちを変えてくださるようお願いすること。
④ 神の義で私たちを覆っていただくこと。
⑤ 神の正しい聖霊に神の義の実を、私たちの内に結んでいただくこと。

このようにして、私たちは心を尽くし、魂を尽くし、思いを尽くして神を愛し、隣人を自分のように愛するのです。こうして私たちは実を結ぶのです。こうして私たちは礼服を着るのです。イエスは「招待される者は多いが選ばれる者は少ない」とおっしゃっています。これが私たちが「選ばれる者」になる方法です。

みなさんはどうですか？「礼服」を着ていますか？今日、イエスを受け入れてください。そしてイエスにその義で覆われて、みなさんの中に「神の義の実」を結ばせてください。今日、そうしてください。

指定のない限り聖書は協会共同訳を使用しています。
聖書 協会共同訳: ©日本聖書協会
Japan Bible Society, Tokyo 2018

キリストのことをもっと知りたい
洗礼を受けたいという方はこちら
メール：cc@tokyobaptist.org
もしくは：https://t-b-c.us/cc

TBC Life 申込み
（毎週届くメールニュース）
http://t-b-c.us/tbclife



SG レッスンの PDF
https://t-b-c.us/sg2922jp

★クラス 101
教会員になるためのクラス
9月10日（日）13：30～17：30
https://t-b-c.us/classes

奉仕者募集中！

1．週末礼拝メッセージ翻訳者（数名募集）
1か月半に1度くらいのペース
自宅での作業になります。
英語を日本語へ翻訳します。

2．日本語字幕オペレーター（4名募集）
月1回～各礼拝の時間（特に3時、5時の礼拝募集）の字幕のページをめくる奉仕です。英語を聞いて日本語がどの翻訳部分かわかる程度の英語力が必要です。操作は矢印キーを押すだけの簡単なものです。

連絡先（ひろみ）：
hiromik@tokyobaptist.org

オンライン献金
http://t-b-c.us/give

スモールグループ参加申込み
http://t-b-c.us/sgsu